

「川ビジョンおおいた2021」の概要(1/2)

1. 策定の趣旨

- 気候変動により近年、頻発・激甚化する水害や「流域治水」への転換を踏まえた「事前防災対策」に取り組むため、河川整備の長期計画を作成。
- 本ビジョンは流域治水プロジェクトの考え方を踏まえ、河川管理者が行う対策をより具体化し、今後の河川整備の目標やハード、ソフト対策の将来像を示すもの。

2. 策定単位・対象期間

- 策定単位は、流域治水協議会の範囲を基本とし、**右記の7圏域**とする。
ただし、1級水系の県管理区間及び2級水系とする。
- 対象期間は**概ね10年間**とし、今後の浸水被害の発生状況や施策動向などを勘案し、**5年を目処**に整備目標や内容の見直しを行う。

3. 河川整備の優先度

- 既往洪水による浸水被害状況、本支川及び上下流バランス、河川整備の進捗状況等を考慮し、下記の観点から、優先的に整備する河川を選定する。

(1) 家屋浸水被害の防止または軽減対策を行う河川

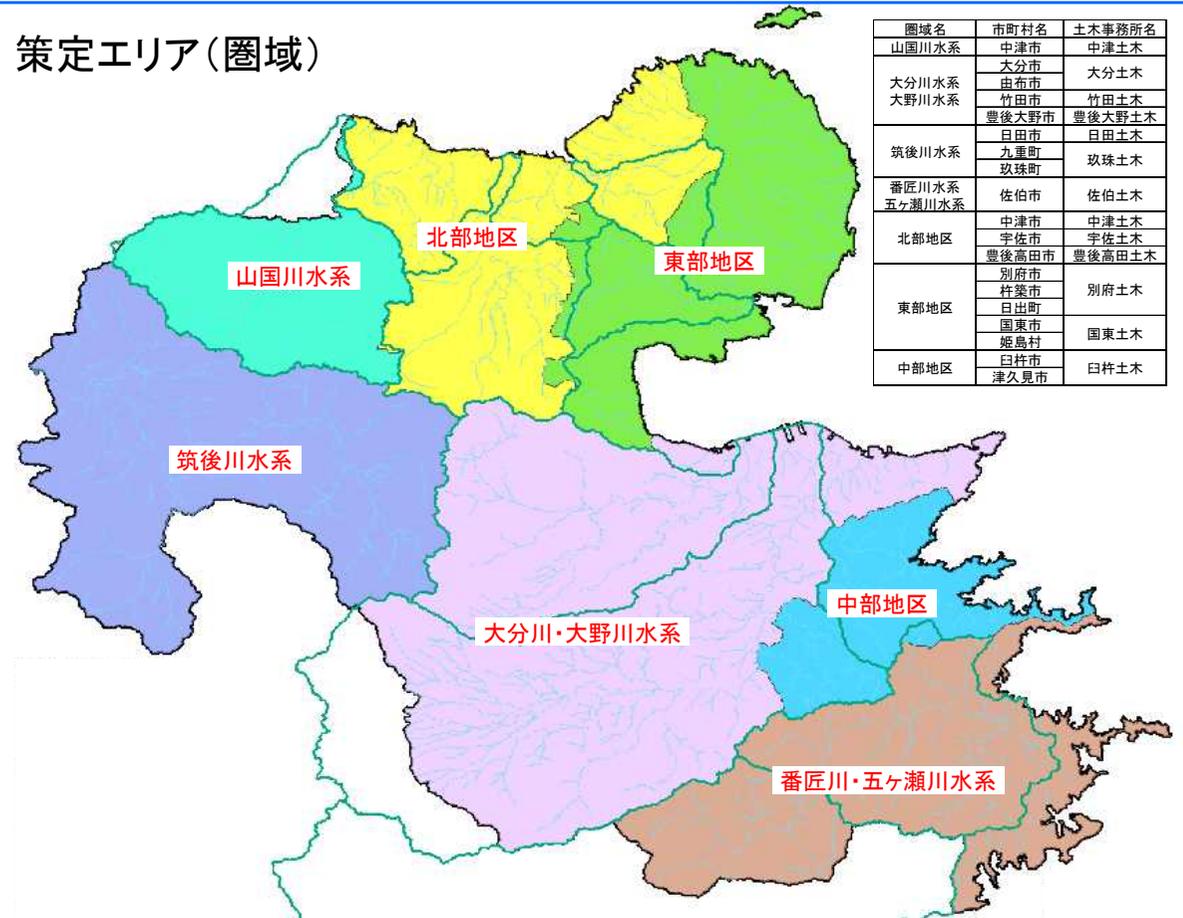
(2) 近年の降雨状況や気候変動を踏まえた場合に浸水被害が発生する可能性がある河川

川ビジョンおおいたの対象範囲



流域治水概要図

策定エリア(圏域)



「川ビジョンおおいた2021」の概要(2/2)

4. 確率降雨強度の見直し

- 河川計画の基本となる**確率降雨強度(H9.4)**を**最新の雨量データ**で見直し。

(1) 確率降雨強度の精度向上

26年分の雨量データ追加(S2~H6→R2)
雨量観測所追加(108箇所→165箇所)

(2) (1)に加え、今後の気候変動分を見込む

※「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」の提言(令和3年4月改訂)に基づいて設定

- 従前の降雨強度からの増加割合：日田約**1.2倍**(県平均**1.1倍**)

5. 短期、中期、長期の整備目標(ハード)

【短期、中期の整備目標】

気候変動の検証や近年の浸水被害などを踏まえ、**計画対象期間(10年間)**に**優先的に整備する河川**を選定。

○事業実施中の河川：41河川(山国川、津久見川など)

○優先的に整備する河川：**11河川**(玖珠川、安岐川など)
家屋浸水実績ありで未整備の箇所

【長期の整備目標】

将来的に浸水被害が懸念される河川及び未整備の河川から今後の浸水リスク等を踏まえ選定。

○将来的に整備を検討する河川：**13河川**(大分川など)

※今後の検討などに伴い変更となる可能性があります。

6. 河川情報の提供(ソフト)

- 住民の避難行動を促すため、河川情報を提供。

○視覚情報の発信、充実

危機管理型水位計設置(24基) 合計151基

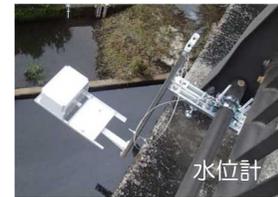
簡易型河川監視カメラ設置(69基) 合計151基

県HPや防災アプリ等を通じて視覚情報発信を行う。

○情報収集・集積・伝達の高度化を推進するため、DXについても取り組んでいく。



カメラ



水位計

7. 防災意識の向上(ソフト)

- 住民の防災意識を高めるため、以下の取り組みを行う。

○洪水浸水想定区域図の作成(246河川)

浸水リスクの高い**中小河川**において**洪水浸水想定区域図**を作成し、**市町の洪水ハザードマップ作成**の支援を行う。

○水防啓発、防災教育等の取組

防災士の養成研修や消防学校への講師派遣
学校等の教育機関と連携した防災教育の推進



小中学校への防災教育

○要配慮者利用施設における避難態勢構築への支援
要配慮者利用施設の避難確保計画・訓練実施
(水防法により義務づけ)について支援。